

やっとこの日を  
迎えました！

子どもが自ら育つ園庭に…

# チャレンジタワーと ブランコの制作

12月27日(日)

講師の先生をお呼びして、チャレンジタワーの制作とブランコの改善に取り組みました。

講師紹介

井上 寿 (いのうえ ひさし)

一級建築士/子ども環境アドバイザー。1級建築士事務所 Integral Design Studio 代表。関東学院大学・流通経済大学非常勤講師。建築や家具、園庭の設計、ものづくりワークショップのファシリテーターなどを通して子どもの主体的な育ちのための環境作りを実践。

**本日制作するものについての  
ディスカッションからスタート**



### 現状として…

- 子どもは常にチャレンジすることを求めている、今の園庭にはチャレンジする要素が少ない。
- 特に月組の男の子たちにとって、やってみようと心動かされる環境がほとんどない。
- 5月に取り壊した雲梯や石山、回旋塔には危険もあったが、チャレンジする要素もたくさんあった。



**チャレンジする要素がある遊具が欲しい！**

- 誰もが達成できるものではなく、粘り強く取り組んだ末に達成できるもの
- 子どもがちょっとした恐怖心も抱きながら、真剣に取り組めるもの
- 子ども自身でやるか、やめるか選択できるもの



**チャレンジタワーを作りたい！**

各地の園で作られたチャレンジタワーを見せていただきました。園庭に生えている樹木を利用して作ったものや斜面を活かして作ったもの、高さや形もいろいろあって、今の蒲幼稚園にふさわしい形はどんなものだろうと考えました。

また、どの園の子どもたちも生き生きとした表情で遊んでいました。大人の背丈以上の高さをよじ登ったり、一本橋を渡ったり、一本橋から一本橋に移ったり、驚くような運動能力で遊ぶ姿が見られました。子どもは、チャレンジすることが楽しみの一つであることが見て感じられました。



**私たちの改造は、始まったばかり！そこで…**

**子どもの様子を知るため、シンプルな形のものを作ってみよう！**

- ◎ **高さ180cmのチャレンジタワー**
  - 真剣に取り組まないと登れない高さに設定すること。
  - 高さに対応できる能力が育った子のみが到達できる構造にすること。
  - 踏み台や他者の力に頼らず、自分の力で登り降りするという園の文化を築いていくこと。
- ◎ **高さ90cmのチャレンジタワー**
  - 体力、身長などに関係なく、よじ登る楽しさを味わったり、180cmの前段階としてよじ登る経験が積めるもの。
  - どちらも遊びに応じて変化させることができるシンプルな形にすること。



**園庭にある大人がつくった  
ルールや禁止事項を失くしたい！**

以前から私たちの中にあった思いの一つでした。チャレンジタワー同様に各地の園で作られてきた様々な形のブランコを見せて頂き、私たちが取り組むのは…

### ◎ **ブランコの鎖をロープに、座面を木材に変えて、 周りの柵を撤去する**

- 子どもが思いついた楽しみ方ができるよう、万一ぶつかっても衝撃が少ない素材にすること。
- 全身を動かして遊ぶ遊具としてブランコの在り方を見直し、高さも調節すること。
- 子どもが持つ危険察知能力を十分に発揮して遊び、遊びや安全に必要なルールは子どもと一緒に考える園の文化を築いていくこと